

障害持つ学生最多

大学や高専、昨年 1.4 万人

障害のある大学、短大、高等専門学校の学生は 2014 年 5 月 1 日現在で、1 万 4,127 人だったことが 10 日までに、日本学生支援機構（JASSO）の調査で分かった。2013 年度から 678 人増え、2005 年度に調査を始めて以来、過去最多だった。

JASSO の担当者は「障害者への社会的な理解も深まり、大学の支援体制も整ってきていることで、進学しやすくなっているのではないかと話している。

調査には全国の国公私立の全 1,185 校が回答。障害者手帳を持っている学生や、健康診断などで障害があると分かった学生を集計した。

障害者が在籍していたのは全体の 70%に当たる

833 校。障害種別では、病弱・虚弱が 3,037 人で最も多く、発達障害 2,722 人、肢体不自由 2,534 人、聴覚・言語障害 1,654 人と続いた。

授業の際に何らかの支援をしている学校は 639 校。支援の内容は障害に応じて、① 使用教室や座席の配慮、② 聴覚障害者のため授業内容を要約して伝える「ノートテイク」、③ 手話通訳、④ 休憩室の確保などだった。

JASSO は今後も、教職員向けの研修などを実施して、支援体制の充実を図りたいとしている。

（日本経済新聞・東京（夕刊）2015 年 4 月 10 日）

5 資格の合格発表

理学療法士は 9,952 人誕生

厚生労働省は 3 月 27 日に第 17 回言語聴覚士国家試験と第 28 回義肢装具士国家試験の合格者を、30 日に第 50 回理学療法士・作業療法士国家試験と第 45 回視能訓練士国家試験の合格者をそれぞれ発表した。

言語聴覚士試験は 2,506 人が受験し、1,776 人（合格率 70.9%）が、義肢装具士試験は 264 人が受験し、

238 人（90.2%）が合格した。

また、理学療法士試験は 1 万 2,035 人が受験し、9,952 人（82.7%）が、作業療法士試験は 5,324 人が受験し、4,125 人（77.5%）が、視能訓練士試験は 886 人が受験し、788 人（88.9%）がそれぞれ合格した。

（福祉新聞・第 2710 号 2015 年 4 月 6 日）

パラリンピック教育を全国展開

文部科学省

下村博文・文部科学大臣は 10 日、「オリンピック・パラリンピックレガシー（遺産）創出に向けた文科省の考えと取り組み」を発表した。パラリンピック教育の全国展開などを進める。

国際五輪委員会などに提出された大会開催基本計画を受け、現時点での文部科学省の考えを取りまとめたもの。五輪憲章で「大会の有益な遺産を開催国と開催都市が引き継ぐよう奨励する」とされていることから、スポーツ、教育分野などで次世代に引き

継ぐ目標などを示した。

目標には「文化資源の積極的な活用」「年齢、性別、障害などにかかわらず活躍できるコミュニティの実現」などと明記。具体的には、障害者と子供の交流・共同学習を推進することや、障害者スポーツを普及促進すること、競技施設などのバリアフリー対策を強化すること、特別支援教育を充実することなどを挙げた。

（福祉新聞・第 2712 号 2015 年 4 月 20 日）